

令和8年度
第1回 足立区不登校支援連絡会
全体会 議事録

令和8年7月17日

概要

会 議 名	令和８年度第１回足立区不登校支援連絡会 全体会		
事 務 局	教育指導部不登校施策推進担当課		
開催年月日	令和８年７月１７日		
開催時間	１８時１５分から１９時４５分		
開催場所	足立区役所庁舎ホール		
出席者	東京都立小台橋高等学校	東京みらい中学校	東京未来大学 みらいフリースクール
	小池学園 フリースクール tumu-ni	(株)エデュケーショナル ネットワーク	認定特定非営利活動法人 カタリバ
	認定特定非営利活動法人 キッズドア	LILA 子どもの学びを 支援する会	スマイル・エイジング パートナー
	一般社団法人チョイふる	あだちファミリースペース every tree	オルタナティブスペース 森の時間
	がるまる	キラキライキプロジェクト	コドモノマド
	Dopeeps	花保中学校協議会 校内居場所 ASK	足立区社会福祉協議会
	小学校PTA連合会	中学校PTA連合会	小学校長会
	中学校長会		
	あだち未来創造室長	こども支援センターげんき所長	子どもの貧困対策・ 若年者支援課長
	福祉まるごと相談課長	教育相談課長	教育相談課登校支援係長
会議次第	不登校施策推進担当課長	不登校施策推進担当係長	不登校施策推進担当主査
	1 東京都立小台橋高校より 2 足立区の不登校施策について 3 保護者支援の取組み		
	1 東京都立小台橋高等学校（２０２７ SCHOOL GUIDE） 2 足立区の不登校施策について 3 全力応援！－足立区子ども・若者計画【子ども・若者版】 4 団体の保護者支援（「Dopeeps」「あだちファミリースペースevery tree」） 5 『みつける、つながる。子どもの多様な学びと進路のフェア』の実施及び参加団体の募集		
	その他 傍聴人無し その他参加者無し		

(会議経過)

1 開会前の確認事項

(不登校施策推進担当主査)

2 挨拶

(こども支援センター所長)

本日は皆様、お忙しい中足を運んでいただき、誠にありがとうございます。日中の業務等でお忙しい中、悪天候で事業にも影響があったかと存じますが、お越しいただき深く感謝申し上げます。

本区における不登校の状況について少しお話しさせていただきます。令和7年度の不登校児童生徒数ですが、実は1,644名となっており、前年比で102名(小・中学校合わせて)増加しているという状況でございます。

特徴としては2点あり、1つ目は不登校の長期化、2つ目は小学校低学年という早い段階での不登校の増加です。このような複雑化する不登校の現状においては、行政だけでは当然支援しきれないところでございます。本日多方面からお越しいただいている様々な団体の皆様と協力し、本日は「保護者支援の取り組み」についても共有させていただく予定です。

児童生徒への直接的な支援は当然必要ですが、保護者支援も非常に重要であると考えております。先月、保護者向けの講演会を開催いたしましたが、私自身も保護者支援の重要性と、皆様の抱える問題の痛切さを感じました。

本日のお話をさらにバージョンアップさせ、区としても考えていく企画がございます。皆様にとって本日は有益な情報を持ち帰り、情報交換をして活用していただければと思います。また、本日の会が終わった後も名刺交換などを通じて皆様のネットワークがより強くなり、足立区の不登校施策を皆様で支えていただける良い機会にできれば幸いです。私からの挨拶とさせていただきます。

3 参加法人・団体紹介等

(学校法人小池学園 フリースクール tumu-ni)

皆さん初めして。よろしくお願いいたします。学校法人小池学園は、越谷市の方で「武蔵野星城高等学校」や通信制の高校を運営しておりし

て、この4月から竹ノ塚駅前にて居場所支援を主眼に置いたフリースクール「tumu-ni」を開所いたしました。今日はたくさん勉強させていただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

(株式会社エデュケーションアルネットワーク)

皆さん、こんばんは。株式会社エデュケーションアルネットワークと申します。弊社は通信教育Z会のグループ会社でございまして、自治体様へのご支援をさせていただいている会社です。

「Z会」と聞くと、「東京大学を目指すのではないか」「難関校を目指すのではないか」と思われ、多くの方にZ会の学習を断念したと言われることもございます。しかし我々としては、「どのような環境にある子どもたちにおいても等しく質の高い教育を受けられる機会を提供する」というミッションを掲げて活動しております。今回の不登校支援も含め、子どもたちのために尽力できればと思っております。引き続きよろしくお願いいたします。

(コドモノマド)

コドモノマドです。every treeさん、Dopeepsさん、そしてトーキョーコーヒーさん、絵画教室のやわらかアートアカデミーさんの4者で、「コドモノマド」という子どもの居場所を紹介するプロジェクトを始めました。よろしくお願いいたします。ありがとうございました。

4 東京都立小台橋高等学校 紹介

(東京都立小台橋高等学校)

よろしくお願いいたします。

本校は足立区小台にあるチャレンジスクールというものです。元荒川商業高校を小台橋高校として開校し、5年目になります。在籍生徒の半分が足立区の生徒、その多くが不登校経験者です。本校は「登校して学ぶ学校」ということがお伝えしたい点で、様々な工夫を凝らしています。

そもそもチャレンジスクールとは、東京都に7校ございまして、主に不登校の生徒を受け入れる学校です。午前・午後・夜間の「3部制」

で、単位制総合学科の学校です。分かりにくい点ですが、メインの時間を3部の中から選べる学校です。朝が苦手な生徒、昼夜逆転している生徒でも通しやすい仕組みです。

また、単位制でして、卒業までに最大6年間通えます。そのため自分のペースで通うことができる学校です。一日4時間だと4年、6時間だと3年という形で卒業でき、自分の目標に合わせて通うことができます。

総合学科とは、普通科以外にもたくさんある学科です。最低限の主要五科目は修める必要がありますが、音楽や美術、パソコンなどの授業を多く取得して、卒業を目指せます。

開校して5年目で2回目の卒業生を送り出すことができました。卒業生139名なのですが、これは入学した生徒の6割にあたります。本校としてもミスマッチを防ぎたいので、卒業できそうかという点も踏まえて選んでいただきたい。

進路は多様です。大学や専門学校に進む生徒もいれば、就職する生徒もいます。ただ、中には卒業を第一目標として、その後はまだ未定という生徒もいる。割合でいうと専門学校がやや多い。

様々な生徒を支援するため、「教育相談部」という部を設けている。登校できない、教室に入れないという様々な課題を抱えている生徒の支援を各教員に周知することも含めて対応する部署です。

また、カフェのような「ラーニングコモンズ」、静かに過ごせる「クワイエットルーム」「居場所カフェ」、学習を補助する職員がいる「校内別室」など、多様な居場所を用意しています。一歩踏み出せる生徒に対し、しっかり支援し卒業まで導いていきます。

とはいえ最初の1年間登校を頑張っても難しい生徒がいます。出席率は7割くらいです。単位が1つも取れない生徒は2年目に再履修講座も用意しています。それも難しければ単位認定という制度も用意しています。

入試では学力テストを行わず、これからの意欲を重視する志願申告書や作文、面接で選考します。志願申告書とは「PRカード」みたいなもの。時間をかけて書いて貰い、これからどう

していきたいか、未来について語ってもらうもの。

小台橋高校は魔法の学校ではなく、本人の頑張りが必要な学校です。まずは一歩踏み出して学校に来てもらいたい。来てもらった生徒は学校が一生懸命サポートします。

もし小台橋の話を聞きたいということであれば、個別にご連絡いただければと思います。ありがとうございました。

（株式会社ベネッセコーポレーション）

（資料の）フローチャートにあった「個別支援計画」の作成について、相談部・相談委員会で検討されるそうですが、非常にケースが多いかと思います。貴校で特に注力されている点や、この5年間で得られたノウハウなどがあればお聞かせください。

（東京都立小台橋高等学校）

本校ではADHDやASD等、発達障害の傾向を持つ生徒が多いのが事実です。そのため通称「オダユニ」という校内研修資料を作成し、「必ずこのように授業をする」という全体的な指導ができるような大枠を設定しています。

個別ケースにつきしては、月に1度巡回してくる特別支援教育の専門家によるアセスメントを元に具体的な計画を作成します。保護者の方のご理解とご協力・連携を得ながら、担任をはじめとするチームで対応しております。

5 足立区の不登校の現状と不登校施策 （不登校施策推進担当課長）

（1）不登校児童生徒の状況

令和7年度の足立区内の不登校児童生徒数は1,644名で、前年度比で増加しております。特に小学生が前年比79名増と増加傾向にあります。

学年別で見ると、令和7年度の小学1年生が53名（前年比でほぼ倍増）、小学4年生も令和5年度より継続して増加しています。小1・小4への重点支援や、幼稚園・保育園からの「幼保小連携」の更なる強化が必要であると認識しております。

(2) アンケート調査結果の分析

昨年9月に実施した「学校生活に関するアンケート」を学識経験者に分析していただきました。

ア 分析視点：子どもにとって学校が夢や希望を持てる、ウェルビーイング（Well-being）の向上が図れる場所であれば、不登校の発生や長期化を防げるのではないかと。

イ 主な分析結果：学校生活で大切なものとして「友だち」を挙げた児童生徒は登校意欲が高る一方、「特になし」と答えた児童生徒は登校意欲が低下するリスクがあることが分かりました。

ウ 今後の方向性：「友だち」や「勉強」など、学校生活で大切なものを一つでも見つけられる環境づくりや、大人側から手を差し伸べる「アウトリーチ」のアプローチを推進してまいります。

(3) チャレンジクラス「シエスタ」

令和6年度より東京都が主体となって開始した不登校生徒対象の学級です。都内で23校、足立区内では現在1校（第十一中学校）に設置されています。

ア 特徴：柔軟な教育課程の編成が可能（個別の修学旅行日程など）。都の正規教員が4～6名配置されます。

イ 区の「チャレンジ学級」「あすテップ」との違い：「シエスタ」は「学籍が変わり転校扱いになること」「都の正規教員が配置されること」が大きな違いです。

ウ 概要：年間30日以上欠席の生徒が対象。登校時間を通常より1時間遅く設定し、毎月6割以上の出席率を基本としています。9月～12月に授業体験・審査会を実施予定です。

(4) スモールステップルーム（SSR）

中学校内の別室です。「学校には行けるが教室に入れない」生徒の居場所として整備を進めており、令和8年度現在で区内25校に設置済みです。来年度に残りの10校へ整備

し、区内全35中学校への設置を完了させる予定です。

(5) 足立区フリースクール等利用者支援助成金

一定の要件を満たすフリースクール等に通う児童生徒に対し、東京都の助成金（月額上限2万円）に加え、足立区独自でさらに月額上限2万円を上乗せ助成（合計最大月額4万円）する制度です。

昨年度開始いたしました、一部の対象者が区の助成金を未申請という状況です。経済的負担軽減のため、フリースクール事業者様や関係団体の皆様におかれましては、保護者の方への積極的な周知・案内へのご協力をお願いいたします。

(6) 小学校版 SSR

（教育相談課長）

かねてより要望の強かった「小学校版 SSR」について、小学生の不登校急増を受けて検討を進めております。今年1月のアンケート調査では、多くの小学校から「別室支援や SSR は不登校予防・復帰に効果がある」と回答があった一方、「空き教室がない」「人手が足りない」といった理由で「校内別室」を常時開設できていない学校が15校ありました。早期支援の仕組みづくりのため、現在6月～7月にかけて未開設15校の現地調査と課題整理を行っています。12月頃を目途に可能な小学校（8校程度）で試行・整備開設を行い、将来的には全小学校での開設を目指してまいります。

(7) 子ども・若者計画

（子どもの貧困対策・若年者支援課長）

資料5『全力応援あだち子ども・若者計画（子ども・若者版）』に基づき、特に知っていただきたい3点についてご説明いたします。

ア 本計画は令和8年度からスタートする5か年計画です。「こども基本法」に基づき、すべての子ども・若者が将来に夢や希望を描ける地域社会を目指し、「すべての子ども・若者のウェルビーイングを共に考え、共に進む足